防衛大学校本科第３６期学生及び理工学研究科第２７期学生入校式における学校長式辞（昭和６３年４月５日）

第5代学校長　夏目　晴雄

本日、防衛大学校第３６期学生４１６名及び理工学研究科第２７期学生６０名の入校式を挙行するに当たり、高村防衛政務次官[注(1)]、末統合幕僚会議事務局長[注(2)]、中尾陸上幕僚副長[注(3)]、後藤海上幕僚副長[注(4)]、鈴木航空幕僚副長[注(5)]、尾形防衛医科大学校長代理[注(6)]、寺井横須賀地方総監[注(7)]をはじめとする各位、更に地元横須賀市からは、横山市長[注(8)]、青木市議会議長[注(9)]等、多数の来賓の御臨席を賜わりましたことを厚くお礼申し上げます。

また、全国各地から御臨席をいただきました父兄の皆様方に対しましても、心からお礼申し上げますとともに、御子弟の入校を衷心よりお祝い申し上げる次第であります。

本科入校の新入生諸君、諸君は、多数の受験生の中からめでたく難関を突破し、この栄ある入校式に参列されたのであります。心からお祝いいたしますとともに、諸君が自らの意志により、祖国日本の防衛に身を挺するの気概を秘めて、本日を迎えられたことに対し、衷心より敬意を表し、在校の全職員・全学生とともに諸手を挙げて歓迎するものであり

注(1)　高村正彦（こうむらまさひこ）

注(2)　末　貞臣

注(3)　中尾時久

注(4)　後藤　理（ごとうおさむ）

注(5)　鈴木昭雄

注(6)　防衛医科大学校長　菊池順一郎

注(7)　寺井愛宕

注(8)　横山和夫

注(9)　青木良夫

ます。また、タイ王国よりの留学生４名の諸君に対しましても、心から歓迎の意を表します。

さて、防衛大学校の教育は、防衛庁設置法に明示されておりますとおり、「幹部自衛官となるべき者を教育訓練する」ことを目的としております。すなわち防衛大学校は、将来、陸・海・空各自衛隊において活躍すべき幹部自衛官を育成するために存在しているのであります。この故に、本校の教育は、他の一般大学のそれと共通なものを多く持ちつつも、併せて他の大学には見られない特色を有するものであり、諸君は、今後４年間、この防衛大学校教育の基本方針に則り、大いに研鑽し努力せられんことを、切に期待するものであります。

ここに諸君の入校に当たり、私は、次の三点について要望いたします。

第一に、諸君は、将来幹部自衛官となるべき学生として、「優れた士官」を目指して努力することは勿論でありますが、そのためには、まず「立派な社会人」「真の紳士」としての修養、錬磨に心掛けていただきたいのであります。

防衛大学校には、先輩の手によって作られた「学生綱領」があります。それは「廉恥」「真勇」「礼節」の三つの柱から成り立っておりますが、このモットーを実践するため、学生間における自主的な切磋琢磨を最も大切にしているところであります。

この学生同士による自主自律の精神をもってする自己研鑽を目指す意味から、本校では、入校と同時に校内の学生舎で団体生活を送るという制度をとっております。特に新入生諸君にとっては、規律ある団体生活を営むということは、これまでの生活環境と相違するところから、当初は戸惑いや困難を覚えるかも知れません。しかし１万数千人の諸君の先輩は、それを克服してきたのであります。こうした体験は、将来多くの部下を指揮統率する幹部自衛官にふさわしい資質を養成する上で極めて大切なことであります。

諸君は、素直な気持ちで、この団体生活に飛び込み、その雰囲気に馴染み、指導教官の指導の下、上級生の率先垂範を見習い、自らの実践を通じて正しい躾を身につけ、将来の幹部自衛官としてふさわしい容儀・態度の持主になっていただきたいのであります

もとより、４年間を通じての防大生活は、終始他律的強制の下、各個人の自主性や個性が失われるような雰囲気では毛頭ありません。学年が進むにつれて、自主自律の生活態度が重視され、その間に己れの個性を伸ばし、幅広く奥行きのある人間形成をとげてゆくことが要求されてい

るのであります。

将来、自衛隊幹部となるためには、自制の心と自主積極の精神が何より必要なのであります。どうか、諸君一人一人が、この４年間の小原台生活を通じて大いなる人間的成長をとげ、個性豊かにして随所にリーダーシップを発揮できる若人として巣立ってゆかれんことを、切に期待するものであります。

第二に、諸君は、学生として学問の研鑽に大いに励んでいただきたいのであります。今日、いずれの先進諸国においても、その士官候補生教育は、一般大学レベル以上の知的水準の達成と学力の向上を目指しております。我が防衛大学校におきましても、文部省の大学設置基準に準拠した理工学系、人文社会科学系教育に加え、防衛大学校独特の防衛学教育を学業の主たる内容といたしているのであります。

諸君のこれからの勉学は、今後、自衛隊幹部としての生涯をかけて行わなければならない研鑽の第一歩であります。優れた教育体制を擁する防衛大学校において、受身一方、中途半端な気分で日常を終始するには、この４年間は、あまりにも貴重すぎるのであります。今後、各教官の指導に従い、真剣に学問の研鑽に努められ、将来の大成の基を培かわれんよう切望するものであります。

第三に、諸君は体力、気力の錬成に努めていただきたいのであります。幹部自衛官たるには、いかに知力が優れていても、強健な体力と旺盛な気力がなければ、極限状況下にあって、沈着・冷静な判断力・行動力、優れた統率力を発揮することはできません。

防衛大学校は、教育方針の一つとして、学生全員の参加する体育活動及び各種の運動競技を奨励しており、校友会の下に数多くの運動部や文化部があります。諸君は、何等かの校友会活動に参加し、心身を鍛え、豊かな情操を養い、立派な幹部自衛官としての素地を培っていただきたいのであります。そしてこれらの活動を通じ、小原台で流した青春の汗が、良き先輩、良き同期生、良き後輩の絆を固め、顧みて生涯の忘れ難い思い出となるよう祈るものであります。

次に、理工学研究科に入校された諸君に申し上げます。

諸君が、この度、特に選抜され、本校の研究科において一般大学の修士課程相当の高度の科学技術の修得に専念せられる機会を与えられたことを、心からお慶び申し上げます。今日まで、諸君の多くは、第一線における各部隊、機関等にあって、それぞれ多忙にして重要な任務に忙殺され、学究の道から遠ざかることを余儀なくされていたと思います。

研究科生活において諸君は、今一度、学究生活に入られ、過去において履修された基礎を踏まえながら、より高度の学問的研鑽に励まれ、大いなる自信とともに、将来の大成の基礎を更に固められるよう期待してやみません。

今や世界各国は、それぞれの科学技術の粋を尽して防衛力の近代化に努めておりますが、科学技術の立遅れが国家の安全保障に由々しき影響を及ぼすことに思いをいたしますとき、我が国将来の防衛科学技術の向上のため、諸君の若い頭脳に期待すること、まことに大きいものがあります。

頃は、桜花爛漫の春４月、青き海原を眼下に収めるこの小原台上にあって、祖国防衛の尊き使命達成のため、第一歩を踏み出さんとする諸君の健闘を心より祈りつつ、ここに式辞を終るものであります。